

# あきらめずに、次の世代へつなげる。 この梨を、守り伝えたい。

—うもれ木の会(福島県)



産地と食卓と、未来をつなげる。

## 産直通信

2013年9月1回(C週)

### CONTENTS

p2 「コア・フード牛」は実現!  
—内藤牧場(北海道)

#### パルシステムの『産直四原則』

- パルシステムの産直は、以下の4つの達成を目指しています。
- ①生産者・産地が明らかであること
  - ②生産方法や出荷基準が明らかで生産の履歴がわかること
  - ③環境保全型・資源循環型農業を目指していること
  - ④生産者と組合員相互の交流ができること

more info >> <http://www.farmersnet.net>



パルシステムの産直やツアーの情報はこちら!

産直いきいきコミュニティ

<http://sanchoku.pal-system.co.jp/>

うもれ木の会(福島県)の生産者・高田薫さん(右)と父・稔さん

### 「うもれ木の会」の放射能対策

#### 樹皮を削り、枝を洗浄

うもれ木の会では、2012年の1~2月、樹の休眠時期にあわせて除染活動を実施。ひざまで雪に埋もれながら、高圧洗浄機と鎌を使い、樹皮の表面を削りました。



樹皮削りの様子。「大人2人で1日2本できるかどうかでした」と薫さん

#### 梨の放射能検査結果(福島県)

産地名	生産地	最終検査報告日	検査結果
ふくしま梨ネットワーク(萱場)	福島市	2011年8月12日	検出せず
ふくしま梨ネットワーク(安養寺)	福島市	2011年8月12日	検出せず
うもれ木の会	福島市	2011年8月15日	検出せず
JA白河	白河市	2011年8月25日	検出せず
うもれ木の会	福島市	2012年7月24日	検出せず
ふくしま梨ネットワーク(安養寺)	福島市	2012年8月7日	検出せず
ふくしま梨ネットワーク(萱場)	福島市	2012年8月8日	検出せず
JA白河	白河市	2012年8月8日	検出せず

※検出限界は、10ベクレル/kgです。

産地は福島県です。

徳用!

産地は福島県です。



コトコト  
**114**  
きなり

梨(幸水)  
2玉 348円(本体332円)



コトコト  
**115**  
きなり

徳用梨(幸水)  
2kg箱 1080円(本体1029円)

#### 放射能の検査について

福島の梨は、2012年度の検査では放射能は検出されませんでした。2013年産は供給前に検査を実施し、お知らせします。

「味には絶対の自信がある!」  
この梨を守り伝えるための決意

6戸の農家からなる「うもれ木の会」は、農薬削減に取り組みなど「安全・安心」を追求してきた産地。2011年の原発事故以来、放射能の問題は大きな痛手となっています。「梨のような果樹は1年でも放つておくと、取り戻すのに何年もかかる。だから作るのをやめる訳にはいかなかったんです」と語るのは生産者の高田薫さん。昨年、父稔さんの跡を継ぐことを決意した6代目です。

「この梨の味には絶対の自信があります。だから守り伝えたい。それには何とかこの状況を打開し、今を乗り

福島県福島市にある「うもれ木の会」では、少しでも放射能のリスクを減らすため、対策に力を注いできました。農薬削減にも積極的に取り組んできた産地だけに、想いは切実です。産地の生産者が梨に込める真剣な想いを、お伝えします。

果実に移行するのを防ぐには、樹皮から放射能を落とすことが先決。梨の樹が休眠している2012年の真冬、薫さんたちは、ひざ丈まで雪に埋もれながら、高圧洗浄機や鎌を使い、樹皮を削る作業を実施しました。汚染された土壌については、表土のはぎとりに多大なコストがかかるうえ、処分方法に関する行政の方針が決まらないなど、課題が残されています。しかし、パルシステムからの支

越えない」と語る薫さんの眼差しには、並々ならぬ決意がうかがえます。

**放射能を減らすため、樹皮を削る作業を実施**

震災当時、梨の樹には葉や花、実はついていませんでしたが、樹と枝に付着しているセシウムを落とす必要がありました。「福島県が、梨の樹を枝と葉、樹皮、幹、根に解体して放射能を調べたところ、樹皮の数値が高かったそうです。その樹皮を削ることで数値が半分以下になったと知り、すべての樹皮を削ることにしました」と薫さん。

援金で、セシウムを吸着する性質があるゼオライトを購入。園地に散布するなど、独自に対策を行いました。

**実の放射能検査は、2年連続「検出せず」**

そもそも樹の根がある深さまでセシウムが浸透するには10年以上かかり、根を通じて実にセシウムが移行する可能性は低いと言われています。今年、念のために枝の放射能検査を行った結果は「検出せず」。梨は芽を出してから枝に実をつけるまで2年かかります。収穫した後の枝は切り落としながら毎年更新していくので、震災時の枝は、今はほとんど残っていません」と薫さん。2011年と2012年に行った実の放射能検査でも放射能は検出されていません。

今も薫さんの農園は、使用する農薬を県が定める基準の半以下に抑えています。父稔さんが作った堆肥で土づくりをしながら、30年以上前から育ててきた自慢の梨。この梨を後世に伝えるため、高田さん親子は今日も生産に励んでいます。

授金で、セシウムを吸着する性質があるゼオライトを購入。園地に散布するなど、独自に対策を行いました。